

2019年4月10日発行

東海生研 ～メールマガジン 第172号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

***** 《もくじ》 *****

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆2019年度NPO法人東海地域生物系先端技術研究会総会および
- 第1回セミナー（予定）
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆食育シンポジウム (NPO法人日本食育協会)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度A-STEP機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同フェーズ シーズ育成タイプ (JST)
- ☆2019年度e-ASIA共同研究プログラム「材料（ナノテクノロジー）」
- 及び「農業（食料）」分野共同研究課題募集 (JST)
- ☆2019年度企業主導フェーズ NexTEP-Bタイプ (JST)
- ☆2019年度企業主導フェーズ NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆2019年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
- ☆2019年度NEDO先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

◆1◆ 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会通常総会および第1回セミナー（予定）

NPO法人東海地域生物系先端技術研究会は、通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催する予定です。

【開催日時】2019年6月19日（水）14:30～15:30 総会
15:45～16:45 第1回セミナー

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）13階 1303号室
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】

講演： 演題：未定

講師：瀬戸内ジャムズガーデン代表取締役 松嶋 匡史 氏

【情報交流会】ウインクあいち13階 1303号室

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食育シンポジウム (NPO法人日本食育協会)

【開催日時】2019年4月29日（月）12:30～16:00（予定）

【開催場所】 ウィルあいち （名古屋市東区上堅杉町1番地）

【内容】

講演1 「人生100年時代」 琉球大学医学研究科教授 益崎裕章 氏

講演2 「スポーツと食習慣」

国立スポーツ科学センター先任研究員 亀井明子 氏

パネルディスカッション

【案内チラシ】 <http://www.syokuiku-kyoukai.jp/nagoya2019.pdf>

【参加費用】 一般の方 1500円、日本食育協会会員 無料。

【定員】 800名、定員になり次第、締切りとなります。

【申込方法】 上記の「案内チラシ」にあります参加申込書にご記入の上、事務局宛てにFAXにてお申込み下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019年度競争的研究資金等について

☆2019年度 A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

公募要領：https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou_koubo.pdf

分野等：大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援対象とする（医療分野を除く）。コーディネーター等の橋渡し人材が企業と大学等とを調整の上、三者連名で大学等の研究代表者が代表して提案書を作成し応募する。

研究開発期間及び研究開発費：1年、上限300万円

公募期間：第1回目：2019年3月14日～5月14日正午

第2回目：2019年5月23日～7月23日正午

注意：同一研究代表者が、(1)A-STEP機能検証フェーズに複数課題を応募不可。(2)試験研究タイプと実証研究タイプの両方への応募不可。試験研究タイプの第1回と第2回の両方への応募不可。(3)1回の公募期間中に複数への応募不可。

☆2019年度 産学共同フェーズ シーズ育成タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-seeds.html>

分野等：大学等の研究成果に基づく技術シーズの可能性検証及び実用性検証を行い、中核技術の構築を目指す産学共同の研究開発企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が支援対象。

研究開発期間：2～6年

研究開発費：マッチングファンド方式、JST支出分 2,000万円～5億円（企業が支出する研究開発費を上限とする）

公募期間：第1回目：2019年3月11日～5月13日正午
採択予定件数：20 課題程度

☆2019年度 e-ASIA 共同研究プログラム「材料（ナノテクノロジー）」及び「農業（食料）」分野」共同研究課題募集 (JST)

http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce_easia_jrp_8th.html
分野等：

1. 材料（ナノテクノロジー）分野：革新的材料
2. 農業（食料）分野：アジアの動物遺伝資源の保存、改良と活用

公募期間：2019年1月18日～5月14日

☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-b.html>

分野等：研究開発型中小企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長5年

研究開発費：マッチングファンド方式、実施料納付、原則～3億円

公募期間：2019年3月11日～6月10日正午

☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長10年

研究開発費：実施料納付、原則1億円～15億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第1回目締切 2019年7月31日正午

☆2019年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2019/190128mono.htm>

分野等：1. デザイン開発、2. 情報処理、3. 精密加工、4. 製造環境、5. 接合・実装、6. 立体造形、7. 表面処理、8. 機械制御、9. 複合・新機能材料、10. 材料製造プロセス、11. バイオ、12. 測定計測

公募期間：2019年1月28日～4月24日

☆2019年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100193.html

分野等：我が国の（1）省エネルギー、新エネルギー、CO2削減等のエネルギー・環境分野（エネルギー・環境新技術先導研究プログラム）及び（2）新産業創出に結びつく産業技術分野（新産業創出新技術先導研究プログラム）の中長期的な課題を解決していくために必要となる技術シーズ、特に既存技術の延長とは異なる、2030年を目途とした持続可能なエネルギー供給の実現や、新産業創出による産業競争力の向上に有望な技術の原石を発掘し、将来の国家プロジェクト等に繋げていく。

公募期間：2019年3月1日～5月7日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」:

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆花き関係

○「青いキク」が誕生

キクは日本の切り花類の出荷量の約 40% (平成 27 年度)、出荷額の約 30% (平成 26 年度) を占める花き産業にとって最も重要な品目となっていますが、青系の花色の品種は無く、その開発が望まれていました。国立研究開発法人農研機構とサントリーグローバルイノベーションセンター(株)は、共同してその開発を行いました。その結果、青紫色の花を咲かせるカンパニュラの色素遺伝子と、青いチョウマメの色素遺伝子を遺伝子組換えによって導入したキクで青色の花びらを持つタイプが開発されました。

しかし、これを市販するためには、野生種のキクとの交雑による生物多様性影響評価をクリアする必要があります。今後、この生物多様性影響リスクを低減させるための研究開発を行うこととしていますので、市販までにはまだ時間がかかりそうです。

・農研機構 HP: 研究成果

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/076531.html

・農林水産技術会議 HP: 2017年農業技術10大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/10topics.htm>

☆病害虫関係

○抵抗性害虫の出現を遅延させるための殺虫剤施用戦略

新規農薬を開発するためのコストは年々増加し、10年以上の歳月と250億円から300億円の経費がかかるとされています(農薬工業会)。そして、防除効果が高いということで、同一農薬を使用し続けると直ちに抵抗性の害虫が出現してしまいます。そのため、有効な殺虫剤をより長く使い続けられるような使用方法に関する技術開発が求められています。そこで、農研機構、スウェーデン及び米国の大学が共同して殺虫剤施用戦略についての研究開発を行いました。その結果、殺虫剤抵抗性農業害虫の出現をできるだけ抑えるためには、作用機作の異なる複数の有効殺虫剤があった場合に、それらを「同一世代内に施用」した時と、「同一世代内」は単一の殺虫剤を施用し、「世代間」では異なる殺虫剤を施用する方法とを様々な条件を設定してシミュレーションした結果、例えば、チョウ目害虫やコウチュウ目害虫では殺虫剤が非浸透移行性タイプである場合には、「世代内施用」の方が抵抗性の発達遅延に効果的であるケースが多いことが判明しました。殺虫剤使用に当たって参考となる情報と思います。

・農林水産技術会議 HP: 2018年農業技術10大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181221.html>

・農研機構 HP: 研究成果

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niaes/078254.html

☆水産関係

○瀬戸内海におけるアサリ資源増加に向けた取り組み

瀬戸内海は、かつては国内有数のアサリ産地でしたが、現在は最盛期の1%以下に落ち込んでいます。減少した要因は、乱獲、沿岸部の埋め立て、温暖化や貧栄養化などが複合的に作用したと考えられています。これまでも様々な取組が行われてきましたが生産量を回復させるまでに至っていません。現在の取組みとしては、(1)アサリ浮遊幼生を他種と判別する技術を用いたアサリ幼生の分布調査、(2)国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同で、海流や潮流、河川流量などのデータを基に、流況シミュレーションモデルを作成し、浮遊幼生の移送経路を推定し、6月と11月の2回産卵される卵や幼生の分散範囲を明らかにし、アサリ漁場やアサリ養殖場所へ浮遊幼生が効果的に供給されるように母貝集団を形成すべき場所を決めています。浮遊幼生が定着し、稚貝になる場所に被覆網を敷設して保護管理することにより、海域のアサリ資源量が増えていくことが期待されます。

・国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所 第15回成果発表会
<http://www.fra.affrc.go.jp/topics/20180216/04.pdf>

.....

編集後記

4月1日に新元号「令和」が発表されました。そして、平成最後の春となり、満開の桜を十分に味わうことができました。また新たな事業年度が始まるにあたって気を引き締めております。

さて、「多忙な人でも簡単にできる上手な休み方や、仕事をスムーズにこなす方法を伝授」と書いておられる、西多昌規（にしだ まさき）著「水曜日に『疲れた』とつぶやかない50の方法」（朝日新書：2012年5月30日発行）を読みました。著者は大学病院に勤務されている精神科医で、うつ病、睡眠障害を専門にされています。

医学の視点からも、「疲れ」は「うつ」や「不眠」と切っても切れない関係と述べています。本書では、月曜日から金曜日までの平日と、週末の休日とを分けて、疲れをなるべく貯めない気持ちの持ちようや、過ごし方の工夫が50にまとめられています。水曜日の章では、仕事と私生活との適切なバランスから労働時間を考える「ワークライフバランス」という考え方があり、労働時間の短縮だけが目的ではなく、作業の全般的な効率化や働いている人の健康度を高めることなどを目的として、週に1日は定時に帰宅を推奨している官公庁や企業が多くなってきていると述べられています。「ノー残業デー」「定時退社日」を水曜日に決めている組織が圧倒的に多いそうです。水曜日に、意図的に早く帰る曜日が設けてあるのには、効率と疲労という側面があり、水曜日をうまく活用することが、1週間の折り返し点を無事に通過できる鍵であるとしています。

ここで述べられているすべての内容が、すべての人にマッチするわけではありませんが、使えるエッセンスを、少しだけでもいいから頭に入れて、行動に取り入れるだけで充分と著者は述べています。

本書では運動習慣の効果についても述べられており、私もできるだけエレベーターやエスカレーターを使わないで歩くことなどを行い、日々の運動習慣をつけることを心掛けたいと思います。（中山）

=====
《メールマガジンに関するお問い合わせは》=====
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2*y4.dion.ne.jp（*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>